

4 活断層

活断層とは、近い将来活動するおそれのある断層のことで、活動した場合には、地震が発生することを意味しています。

前で述べたように、内陸地震は地下の浅いところで断層が活動することによって発生します。このため、ある程度以上の規模の内陸地震では、地下の震源断層による岩盤のずれ(変位)が地表に表われます。この地表の変位を地表地震断層と呼んでいます。また、このような地震は、同じ場所で繰り返して発生しており、地表地震断層も同じ場所に出現し、地表での変位が累積されます。

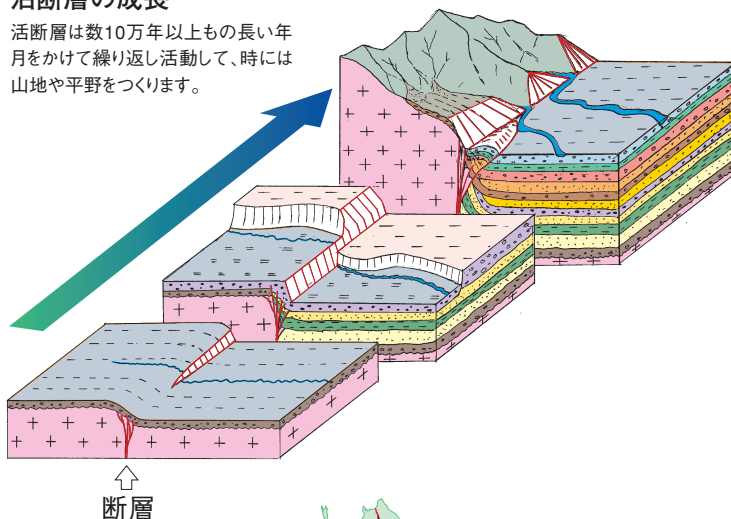
比較的新しい地形や地層に断層による変位があり、古いものほど変位量が大きければ、過去に繰り返し断層活動があったと判断できます。このことから、その断層は近い将来にも活動する可能性が高いと推定されることになります。このような断層を活断層と呼んでいます。

日本全国には約2000もの活断層が存在していると言われています。

これらの中でも、それが大地震を起こした場合、社会的、経済的に与える影響の大小を考慮して、98の断層又は断層帯の調査が進められています。

活断層の成長

活断層は数10年以上もの長い年月をかけて繰り返し活動して、時には山地や平野をつくります。



日本列島の活断層分布図

(活断層は「活断層詳細デジタルマップ」(2002)より)
赤線:活断層、黒線:推定活断層